

Y I C看護福祉専門学校 2020年度 第2回教育課程編成委員会 議事録

日 時：2021年2月25日（木）15時10分～16時10分

会 場：301教室

出席者

(委員) A：山口県介護福祉士職能団体の長
B：介護福祉学科実習施設長
C：看護学科実習病院看護部長
D：介護福祉学科卒業生
E：看護学科卒業生

欠席者 看護職能団体の長

学内出席者

F：学校長
G：副校長
H：事務長
I：教務統括・看護学科長
J：教務課長・介護学科長
K：付帯事業推進課長
書記：看護学科教員

1. 校長挨拶

今年度1月31日に介護福祉学科21名（留学生2名）、2月14日には看護学科35名が国家試験を受験した。合格発表は、介護福祉学科、看護学科とも3月26日である。

今年度はコロナ禍により対面授業でなく、遠隔授業を余儀なくされ、学校あげて、リモート授業に必要な設備や環境整備を行った。実習も3割程度しか臨地実習に臨めず、残りの実習は学内で行った。11月に当校でもコロナ感染者が出たが、最小限の感染にとどめ、保健所からは感染経路については原因不明と判断され、結果的にクラスターに至らなかった。日頃の皆様の感染対策に感謝している。

また、新カリキュラムが介護福祉学科は2021年度、看護学科が2022年度から開始となる。カリキュラム改正では生活を支援する能力、多職種と連携協働できる能力、保健指導ができる能力が求められる。生活を支援できる能力、多職種と協働する能力は介護・看護に共通し求められている。Y I Cグループ内の他職種の学科と協力してカリキュラム改正の準備をしていきたい。

2. 議事

2020年度教育課程に基づく取組と評価、次年度の課題と対策について

- (1) 2020年度 of 取組と評価
- (2) 2021年度 of 教育計画

【看護学科】

I 資料Iを説明。

【介護福祉学科】

J 資料IIを説明。

E委員：当院でもチーム力向上を課題と考えているが、看護学科の目標にチーム力向上とあるが、どのように計画をたてているか？

I：学力の低い学生や実習でコミュニケーションが図れない学生に対して、チームの中で学生同士がお互い支えあって、継続して学習することで成果が出せると考えている。チーム全体で、学力を引き上げるように支援をしていく。具体的な計画はこれから検討中である。

E委員：当院の試みで、入職者対象に定期的に職場の悩みなど話しあえる場を作った。参加している先輩やベテランも加わり、チーム力が向上した結果、退職者が一人もいなかった。

B委員：改正カリキュラムの内容についてどのような点が改正されるのか？

I：今までは病院中心の医療だったが地域で支える医療にスライドし、その医療に携わる看護師を育成する。内容としては、どのように対象者が生活しているか、家でどのように過ごすかという視点が重要。科目としては地域

在宅論となり、多職種連携がキーワードとなる。本校では昨年度から姉妹校であるリハビリテーション大学から理学療法士、作業療法士、当校から保健師・看護師、社会福祉士、介護福祉士が集まり、実際の多職種連携を学ぶ機会を設けている。介護福祉学科と看護学科の学生の交流やお互いの考えを話し合う場にもなった。

J：介護福祉学科の改正カリキュラムは、地域との連携、多職種協働連携などは看護同様含まれている。介護分野は有資格者も無資格者もなかなか専門性が見えにくくまんじゅう型と言われていたが、今後は介護福祉士が中核的なリーダーとなり、富士山型のようなキャリアパスに変えていくよう打ち出されている。あらたな内容としてはマネジメントに関する学習が入ってきている。

A委員：学校で学んだ根拠に基づいた介護が、現場では順守されていないこともある。そのことが原因で新人が離職している。その点についてどのように捉えられているか。

J：退職した卒業生に理由を聞くと、人間関係のトラブルがほとんどである。また、現実と理想のギャップもあるようで、3～4施設目で落ち着いているようである。

E委員：当院も過去に理想と現実のギャップや乖離が原因で離職が多かった。対策として利害関係のない者同士で、定期的かつ勤務時間内の雑談タイムを設けることとした。そこでの会話内容は、外に漏らさないこととし、安心できる環境の中で様々な意見が飛び交って発散できているようである。また、学校からのアンケートも参考になっている。フィードバックするためにもこのアンケートは重要な意見である。

A委員：ホームカミングデイの取り組みは良いと思う。

J：ホームカミングデイで挙げた意見は、この年次の卒業生の意見ということで就職先全部に取りまとめてフィードバックするようにしている。

A委員：この委員会でもその結果を提示していただきたい。現場にその意見を還元したい。

D委員：教育内容で、チーム力の向上とあったが、グループ学習を進める際に、各メンバーの能力を可視化できればフォローもしやすくスムーズに運営できるのではないかと思った。

C委員：教育内容について、チーム力を上げるというが、看護師国家試験の合格率を上げるためとの印象と受けとれた。

I：やはりベースはチーム力にかかっている。メンバーがお互い教え合うことで成長でき、これからの経験は社会に出てからも役立つと考える。

J：国家試験のためだけではないが、現実的には国家試験の合格率を上げなければいけないという目標がある。そこだけにとらわれすぎず学生の人間性やゆとりをもった関わりが必要である。

K：グループ、チームの言葉の意味の認識も違うため定義を明確にし、目的に応じた意図的なグループ編成が効果的な学習につながると考える。

議事について、全員一致で承認